

JOHAニューズレター

第36号

日本オーラル・ヒストリー学会第17回大会 (JOHA17) のご案内

日本オーラル・ヒストリー学会第17回大会 (JOHA17) が 2019年9月7日(土)、8日(日)の2日間にわたり横浜市立大学において開催されます。お誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

【目次】

I. 日本オーラル・ヒストリー学会	シンポジウム
第17回大会・・・・・・・・・・・・・2	2. 自由報告要旨
大会開催校より	
1. 大会プログラム	II. 理事会報告・・・・・・・・・・・・・15
大会プレ企画	1. 第八期第6回理事会(2019年6月16日)
第1日目	
『禅と骨』上映会	III. お知らせ・・・・・・・・・・・・・19
第1分科会 (戦争)	1. 会員異動
第2分科会 (仕事)	2. 2019年度会費納入のお願い
研究実践交流会	
第2日目	
第3分科会 (移民)	
第4分科会 (メディア)	
特別講演	

.....
*ニューズレター掲載のメールアドレスは、(at) 部分を@ に替えて送信してください。

日本オーラル・ヒストリー学会

Japan Oral History Association (JOHA)

《大会開催校より》

JOHA 第 17 回大会を、9 月 7 日(土)・8 日(日)の両日、横浜市立大学で開催します。

横浜市立大学は、よく横浜国立大学と間違えられますが、1949 年に横浜市が設立した公立の総合大学です。前身は 1928 年に創設された横浜市立横浜商業専門学校 (Y 専) で、横浜市の近現代史とともに歩みを進めてきました。人文社会科学系の学問的系譜は戦後すぐに生まれた「鎌倉アカデミア」にあり、戦争に反対していた文化人を中心としてつくられた「自分の頭で考えることのできる人間をつくる」学びの場です。今でも、授業の一部としてインタビューやフィールドワークを重視し、理論と実践を往還しながら学びを深めていく伝統が残っています。

今回は開催校として、9 月 6 日にプレ企画として「ヨコハマの歴史を歩く、味わう、語る」、9 月 7 日の研究実践交流会「作品化の手法：伝えること、伝わること、共有すること」を主催いたします。両企画ともに、横浜の近現代史をドキュメンタリー作品として描いてきた中村高寛監督 (『ヨコハマメリー』『禪と骨』) をお迎えし、伴走者になっていただきます。ぜひ、お楽しみに。ご参加の皆様の活発な議論をお待ちしています。

JOHA 第 17 回大会開催校理事 滝田祥子(横浜市立大学)

I. 日本オーラル・ヒストリー学会 第 17 回大会 Japan Oral History Association 17th Annual Conference

開催日：2019 年 9 月 7 日(土)、8 日(日)

開催場所：横浜市立大学金沢八景キャンパス

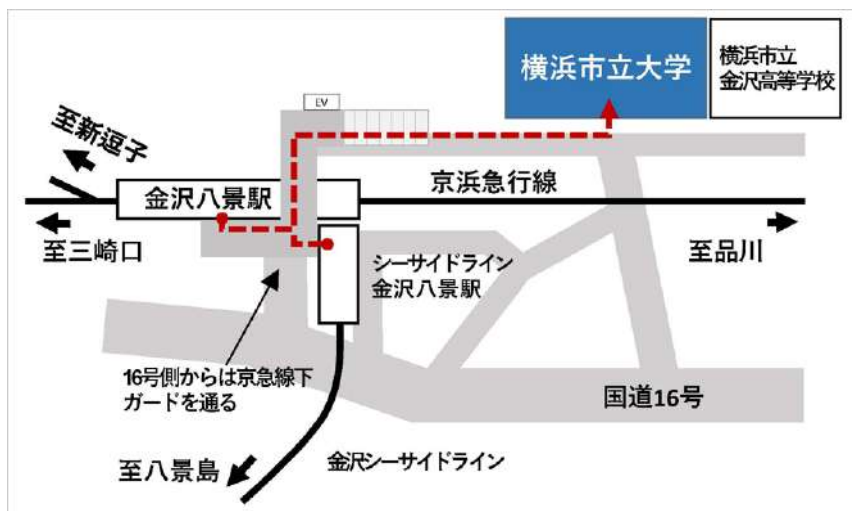
〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2

交通アクセス：京浜急行線「金沢八景駅」下車徒歩 5 分

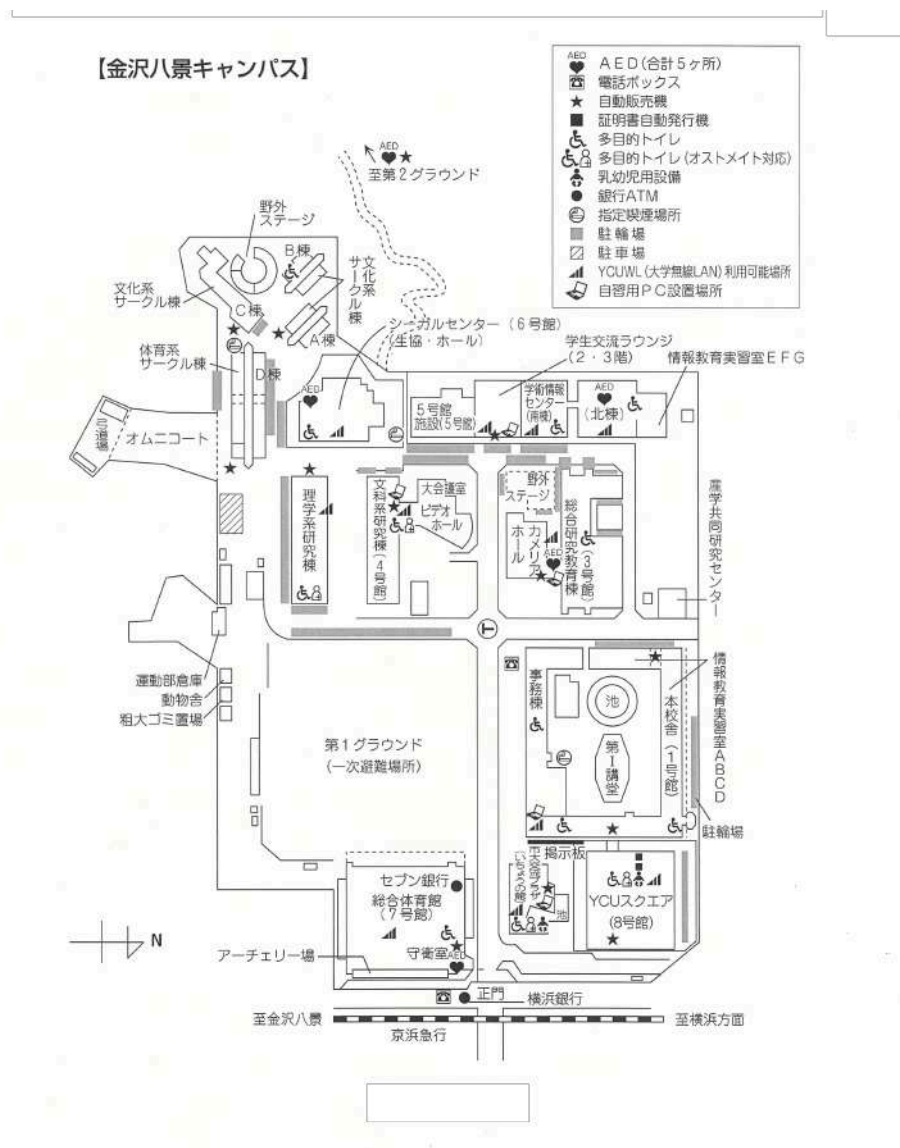
シーサイドライン「金沢八景駅」下車徒歩 7 分

○ 主な駅から京浜急行「金沢八景駅」までの所要時間

- ・「横浜駅」から京浜急行快特・特急で約 20 分、「品川駅」から京浜急行快特・特急で約 40 分



※ 会場は、キャンパス内 YCU スクエア（報告、シンポジウム等）といちょうの館（懇親会）で行われます。



JOHA16 実行委員会：滝田祥子*開催校理事、橋本みゆき、坪谷美欧子、横浜市立大学大学院生、学部生
 学会事務局：人見佐知子、研究活動委員会委員長：田中雅一、会計：上田貴子

・大会に関してご不明な点がございましたら、JOHA 事務局までお問い合わせください。

E-mail: [joha.secretariat\(at\)ml.rikkyo.ac.jp](mailto:joha.secretariat(at)ml.rikkyo.ac.jp)

◎ 自由報告者へのお願い

- 1) 自由報告は、報告 20 分・質疑応答 10 分(合計 30 分)で構成されています。
- 2) 配布資料の形式は自由です。会場では印刷できませんので、各自 50 部ほど印刷しご持参ください。
- 3) 各会場にパソコンを準備いたします。ご利用の場合、USB メモリ等にプレゼンテーションのデータをお持ちください(ご自身の PC 等をご使用の場合、RGB ケーブル接続のみで USB などの接続方式には対応していません。必要な方は変換アダプター等もご準備ください。念のため資料を保存した USB メ

モリ等もご持参ください。

4) 動作確認等は各分科会の開始前にお願いいたします。会場担当者にご相談ください。

◎ 参加者へのお知らせ

1) 会員・非会員ともに受付してください。参加にあたって事前申し込みは必要ありません。

2) 夏期休暇中につき、学内の店舗は休業しております。昼食は各自でご用意ください。近所（徒歩5分）にAEON (<https://www.aeon.com/store/イオン/イオン金沢八景店/>) のフードコートがあります。会場内の飲食は可能です。

3) ロッカーおよびクロークはございません。荷物は各自で管理をお願いします。

4) 託児は可能です。希望者が出てから事前手配を開始する形になりますので、下記の案内を参照してお申し出ください。7月31日が締め切りです。

5) 宿泊ホテルは、大学の近くにはありませんので、横浜駅近くでお取りいただくことになります。横浜市大生協のサイトをご活用ください。

(<http://www.nta.co.jp/kokunai/season/coopyado/univ/cc028/index.htm>)

6) 会場のひとつであるピオニーホール内に研究交流コーナーを設けますので、もし配布希望の冊子、論文、チラシなどがございましたらご持参のうえ、大会実行委員にお知らせください。

◎ 大会時の託児サービスのご案内

託児業務は、株式会社明日香 (<https://www.g-asuka.co.jp/>) に委託します。

利用料・支払

お子さまお一人につき、1時間あたり1,000円です。

学会員以外の方もご利用になれます。

利用時間・場所

時間：2019年9月7日（土）10：00～21：00

2019年9月8日（日）9：00～18：00

場所：会場キャンパス内の一教室。セキュリティ確保のため、お申込者のみにご案内します。

対象年齢

1歳～6歳（未就学児）

※対象年齢を満たさない場合は、ご相談ください。

定員

各日5名

申込み方法（HPで告知済み。申込受付は終了しました）

お申込み・お問い合わせは、メールにてお願いいたします。

託児室の利用をご希望のかたは、①から⑤までの項目をすべてご記入のうえ、2019年7月31日（水）17：00までに、下記アドレスまでお申込みください。

① 保護者氏名

② 託児室を利用されるお子さまの人数 ※お2人以上の場合以下の情報はすべてのお子さまについて
お願いします。

③ お子様の年齢(○ 歳 ○ ヶ月)

④ 性別

⑤ 一時保育利用希望日、時間帯

定員になった場合、締め切らせていただくことがあります。お早めにお申し込みください。

期日を過ぎますと対応できかねますので、ご注意ください。

申込み先

日本オーラル・ヒストリー学会事務局 joha.secretariat[at]ml.rikkyo.ac.jp

[at]を@にしてお送りください。

メールの標題は、「託児室予約」と記入してください。

その他

キャンセルのご連絡は、2019年9月5日(木)17:00までをお願いいたします。以降はキャンセル料が発生します。

前日(5日17:00以降):キャンセル料(半額)が発生します。

当日(6日17:00以降):キャンセル料(全額)が発生します。

託児室の設置・運営は学会会計で賄っております。ご理解・ご協力のほどお願いいたします。

当日、発熱(37.5℃以上)や感染症など体調不良や、集団保育に適さないと保育スタッフが判断した場合には、お預かりをお断りすることがあります。

利用希望の連絡をいただいた方には、一時保育について別途ご連絡いたします。なお、一時保育中のお子様の飲食物は持ち込みとなります。

◎ 懇親会案内

9月7日(土) 18:30~20:30

会場:横浜市立大学 いちょうの館

※DJ Ray(横浜市立大学2014年度卒)選曲の音楽を聞きながらご歓談ください。お天気が良ければ、外のベンチにお座りいただくこともできます。ブラジル料理など、ヨコハマならではのケイタリングをお楽しみください。

参加費:一般 4,000円、学生その他 2,000円

1. 大会プログラム

9月6日(金) 大会プレ企画

中村高寛監督、陳天璽さんと一緒にヨコハマの歴史を歩く、味わう、語る

コーディネーター:滝田祥子

スケジュール

16:00 JICA横浜2階海外移住資料館展示室前ロビー集合(企画展:コーヒーが結んだ日系人と日本)

17:00～ 中華街まち歩き

17:30～ 華都飯店ディナー (陳天璽さんの中華街の記憶) (予算:各自2000円程度)

19:30～ 伊勢佐木町まち歩き+老舗のバー(アポロ)でバーテンダーさんから話を聞く。(中村高寛監督と一緒に) (予算:各自ワンドリンク分)

21:00頃 バーで解散、終了

※ 中村高寛さん(映画監督)には9月7日の研究実践交流会で話題を提供していただきます。中華街の中にオフィスがあり、中村さんのドキュメンタリー映画制作の原点の街と一緒に散策することで、聞き取りと作品の間をつなぐヒントが見つかるかもしれません。

※ 陳天璽さん(早稲田大学教授)は、「無国籍」についての研究をし、ドキュメンタリー映画も制作しています。華都飯店はご実家です。

★ 申し込み先着15名限定にします。ご希望の方はできるだけ早くJOHA事務局へお申し込みください。飲食代のほかに、拠点間移動のための交通費がかかる場合があります。当日の天候などにより、予定が変更する場合がありますのでご承知おきください。お申し込みの際には、お名前とあわせて、当日連絡が可能な携帯電話番号をお知らせください。

申込先 [joha.secretariat\(at\)ml.rikkyo.ac.jp](mailto:joha.secretariat(at)ml.rikkyo.ac.jp)

9月7日(土) 第1日目

10:00 受付開始

10:30～13:00

映画『禅と骨』(中村高寛監督、2017年)上映会

【監督紹介】

中村高寛さんは、1975年横浜生まれ。松竹大船撮影所でキャリアをスタートさせた後、北京電影学院でドキュメンタリー映画の手法を学ぶ。帰国後、中国人ドキュメンタリー映画監督李纓氏の撮影助手を務める。『ヨコハマメリー』が監督第1作。今回上映の『禅と骨』は第2作目。DVD化されていない作品のため、実践交流会で話題を提供していただく前に上映することにした。

【作品解説】

1918年に横浜でアメリカ人実業家の父と新橋芸者の母の間に生まれたヘンリー・ミトワの93年の人生をその複雑さ、滑稽さ、胡散臭さ、愛おしさを包み隠さずに作品にした。1923年に横浜で関東大震災を経験し、1940年には単身渡米。日米開戦後すぐに自ら志願して日系人強制収容所で過ごす。アメリカ国籍を放棄するが、帰還船に乗ることを拒否しアメリカに留まる。戦後はロサンゼルスで順風満帆な生活を築いていたが、突然1961年日本に帰国。京都嵐山天龍寺で禅僧になり、古都の文化人や財界人に囲まれて悠々自適の晩年を過ごすとおもいきや、80歳を目前に突如「赤い靴」の映画を作りたいと中村監督を彼の夢に巻き込むことになる。

この作品は、ヘンリー・ミトワの人生を観客に伝えるために、ドキュメンタリー+ドラマ+アニメ+時代背景や制作過程を解説したパンフレットというジャンルを縦横無尽に駆け巡る手法をとった。縦軸には

横浜の近現代史の流れと日米関係、とりわけ第二次世界大戦の日系アメリカ人強制収容所体験が暗い影を差す。横軸には家族や友人との関係が彼の人物像を際立たせるように配置されている。一人の人生を歴史軸に据え、かつ、人間関係の網目の中に位置付けることは、オーラルヒストリーの正統的な手法である。本作品は、全部で9つの章に分かれている。

13:00 - 15:30 自由報告部会

第1分科会（戦争） 司会：木村豊、人見佐知子

- ・竹原 信也「移動する女性の体験が意味すること～済南の日本人居留地、満州・錦州での生活経験と八路軍従軍看護婦経験を有する女性のライフ・ヒストリー～」
- ・四條 知恵「ろう者の原爆の語り」
- ・那波 泰輔「1980年代のわだつみ会における加害者性との向き合い—1988年の規約改正に着目して」
- ・福田 真郷「沖縄県の在日米軍基地における「黙認耕作」

第2分科会（仕事） 司会：有末賢、矢吹康夫

- ・中原 逸郎「芸の発信—京都上七軒北野をどりの創成を中心に—」
- ・三浦 優子「海外駐在員女性配偶者の生活の中の両義性—語りからの考察」
- ・島田 有紗「高齢者労働力化と就労当事者の経験——高齢自営漁師たちの出漁実践と語りを事例に」
- ・八鍬 加容子「語り始めた「ホームレス」の人々『ビッグイシュー日本版』「今月の人」誌面分析から」

16:00～18:00 研究実践交流会（開催校企画）

作品化の手法：伝えること、伝わること、共有すること

【司会】滝田祥子

【発題者】中村高寛 「横浜をめぐる近現代史の聞き取りのドキュメンタリー映画化をめぐる模索：『ヨコハマメリー』『禅と骨』そしてその先へ」

【趣旨】

研究実践交流会の目的は、オーラルヒストリーの実践をめぐる大会参加者同士が自分自身の研究実践の内容を共有し、今後の研究を続けていく上で有用な気づきを得やすい場をつくることにある。

JOHA2019年春季シンポジウム『ビジュアルオーラルヒストリーの可能性と現在』と実践ワークショップ『作品と現地をつなぐ』の流れを受けて、今回は＜作品化＞の局面に焦点をあて、聞き取りやオーラルヒストリーインタビューを作品化するとき、1) 伝えていくための工夫はどのようにしているのか、2) 作品化したあとに実際に伝わったのは何か手応えはあるのか、3) 過去の記憶を共有することの難しさと可能性とはなにか、の3つの問いについて議論していきたいと考えている。

まず、前半は中村高寛監督をおむかえし、対話形式でこれまでの作品化のプロセスで苦労した点、工夫した点、成功した点、失敗した点、これからチャレンジしようと思っている企画などについてお話を伺う。実際の映像のダイジェストを見せていただきながら、膨大なビジュアルデータや収集した情報を

どのようにして選択し作品に落とし込んでいくのか、など監督自身のドキュメンタリーの手法を明らかにしていく。前作『ヨコハマメリー』が、自分自身を語らぬメリーさんをめぐる様々な人の記憶から伊勢佐木町という〈現地〉の一つの時代を描いたのに対して、2作目の『禅と骨』では、メリーさんに負けず劣らずユニークな人物を目の前にしてその人の人一倍複雑な人生を理解することをその人自身の語りを主軸に描いている。前者は撮れてしまった映画で、後者は監督が確信的に撮った映画だと言われたこともあるようだが、その違いはどのようにして生まれ、そのことは監督自身の作品化をめぐる手応えにどのような影響を与えているのだろうか。

後半は、ワークショップ形式で、参加者の方々の作品化（論文、本、映像、など）実践を共有し、先に挙げた3つの問いについて考えを深めていきたいと企画している。最後に全体で共有し、中村監督からコメントをいただくことにする。

18:30~20:30 懇親会 @いちょうの館

9月8日（日） 第2日目

9:00 受付開始

9:30~12:00 自由報告部会

第3分科会（移民） 司会：佐々木てる、清水美里

- ・孫夢「「留学（さ）せざるを得ない」—当事者のライフストーリーから中国の教育現実を解明する」
- ・山崎 哲「「あなたの名」を知らぬ者は生活史をどう語るか—ある中国帰国者3世への聞き取り事例から」
- ・竹田 響「在日コリアンの国境を越えた親族の繋がり—朝鮮半島の南北に離散して暮らす親族との「再会」に着目して—」
- ・仙波 梨英子「在日フィリピン人の第二世代のオーラルヒストリー：アートを通じた表現活動から考察する」

第4分科会（メディア） 司会：池上賢、倉石一郎

- ・林 貴哉「在外ベトナム人コミュニティにおける声の発信：米国のベトナム語メディア関係者の語りから」
- ・澁谷 由紀「ベトナム戦争期のジャーナリスト／諜報員の語りと現在：『ファム・スアン・アン—名前のとおりに生きた男』とその関連書籍をめぐって」
- ・石井 育子「ラジオドラマ史にみる脚本制作の変遷についての1考察」
- ・西村秀樹・小黒純「社会派TVドキュメンタリーの成立過程の研究、戦争の加害と被害をめぐる『記憶の澱』の研究」

12:05~13:00 総会

13:00～14:00 特別講演

科研費改革の背景と動向

田中雅一 (JOHA 研究活動委員会委員長)

14:00～17:30 シンポジウム

〈見えないもの〉のオーラル・ヒストリー

【司会】田中雅一(国際ファッション専門職大学)、橋本みゆき(立教大学)

【趣旨】

幻覚や幻聴、夢、心霊現象、超常現象といった目に見えないものは、しばしば当事者たちの生に大きな影響を与える。たとえば、災害や戦争で亡くなった者が夢に現れ、遺言を残したり、自らの進むべき道に何か示唆を与えていたり、過去の夢が「虫の知らせ」であり予言・予知であったと認識していたりする。しかし、いかにそれが当事者たちにとってリアリティのあるものとして存在していても、目に見えないものは虚構であるかのように受け止められることも多い。

このシンポジウムは〈見えないもの〉のオーラル・ヒストリーに関連する研究に取り組む人々をパネリストとして招き、その意義や方法について議論する。私たちは〈見えないもの〉に対してどのようにアプローチし表現することができるのか。そして〈見えないもの〉に着目することで〈見える〉ようになるものとは何なのか。

〈見えないもの〉はオーラル・ヒストリーの実践にも深く関わる。インタビューにおいて、相手が自分の経験した幻覚や超常現象を話すとき、私たちは戸惑ったり疑ったりするかもしれない。一方、彼・彼女らが家族や仕事について話をしてもそれを疑うことはほとんどないだろう。だが、その対象者が過去に体験したいずれも、私たちにとっては〈見えないもの〉でもある。〈見えないもの〉のオーラル・ヒストリーを考えることは、フィクションとノンフィクション-虚構と現実-の境界を問い直すことにもつながることになるだろう。(文責 研究活動委員会・根本雅也)

【報告】

- ・金菱清 (東北学院大学) 幽霊と夢のナラタージュー東日本大震災の〈いまはむかし〉
- ・北村毅 (大阪大学) 平和学習とシャーマニズムの接点ーあるガマにおける日本兵の「亡霊」をめぐって
- ・根本雅也 (日本学術振興会) 幻覚の口述史ーある被爆者の憎しみと赦しの物語り

【コメント】有菌真代 (龍谷大学)、村上陽子 (沖縄国際大学)

2. 自由報告要旨

第1分科会（戦争）

司会：木村豊、人見佐知子

ろう者の原爆の語り

四條知恵（日本学術振興会特別研究員PD（長崎大学））

原爆被爆後の障害は、原爆被害そのものとして語られてきたが、被爆以前から障害を持っていた人々の被害とその後の歩みが社会的に顧みられる機会は少なかった。従来の市史を中心とする歴史記述の中で周縁におかれてきた社会的弱者の原爆被害の中でも、障害者の被害の問題に取り組んだ先行研究は少なく、被害の実態も不明である。報告者の関心は、ろう者の集団がどのように原爆被害の記憶を形成してきたのかということにある。本報告では、長崎県立ろう学校をめぐる原爆の語りに着目し、集団としてどのように原爆被害の記憶が形成されてきたのかを検討する。

移動する女性の体験が意味すること～済南の日本人居留地、満州・錦州での生活経験と八路軍従軍看護婦経験を有する女性のライフ・ヒストリー～

竹原信也（奈良工業高等専門学校）

前年度 JOHA16 にて『中国残留日本人女性のオーラル・ヒストリー～移動・家族・従軍看護婦を中心に～』と題し、済南の日本人居留地で生まれ、満州・女学校時代に挺身看護隊として学徒動員され、終戦後は八路軍に従軍看護婦として留用され中国国内を転々とした女性の体験を帰国後の生活も含めて報告した。本報告では、前年度報告と指摘を省みつつ、（1）済南、満州・錦州での食生活・教育・家族形態などの生活実態、（2）八路軍従軍看護婦経験の記憶や口述資料を巡る問題、（3）彼女の「移動」と「体験」を通じて考える「近代日本」と「日本人」の多様なあり方という、三つの個別のテーマについて報告する。

1980年代のわだつみ会における加害者性との向き合い—1988年の規約改正に着目して

那波泰輔（一橋大学大学院）

本発表は、戦没学徒の遺書集『きけわだつみのこえ』を軸に作られた日本戦没学生記念会（わだつみ会）が、1988年に規約に戦争責任の文言をいれたことに着目し、1980年代にわだつみ会がどのように加害者性と向き合っていたのかを考察をしていく。1980年代は教科書問題などにより、日本の加害者性とアジアへの被害がより周知されていった時代であった。1970年代以降、わだつみ会への若い世代の入会が少なくなっており、1980年代に会は積極的に若い世代に働きかけた。しかし、若い世代からはわだつみ会の加害者意識の欠如を指摘されることになった。1980年代に加害者意識が問われたことや、若い世代の獲得を目指したことなどにより規約改正が議論され、規約に戦争責任の文言を追加されていった。

沖縄県の在日米軍基地における「黙認耕作」

福田真郷（京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程）

発表者は、2018年に計3か月間、沖縄県沖縄市にある、在日米軍嘉手納弾薬庫施設内の「黙認耕作地」にて農業、畜産に従事しフィールドワークを実施した。「黙認耕作」とは、在日米軍基地敷地内での、住民による農業などの土地利用を指す。高度な軍事利用のされていない場所で、一定の制限のもと住民が果樹やサトウキビなどを栽培している。成立背景を戦中、戦後の米軍による土地収奪に持ち、「島ぐるみ闘争」を経て正式に制度化された。沖縄市、読谷村、嘉手納町など県中部には、フェンスの内外、土地所有権の有無を問わず、多くの耕作者が今なお存在する。本発表は、「黙認耕作者」および地域と米軍基地の関係性に焦点を当て、その様相を述べる。

第2分科会（仕事）

司会：有末賢、矢吹康夫

高齢者労働力化と就労当事者の経験——高齢自営漁師たちの出漁実践と語りを事例に

島田有紗（京都大学大学院人間・環境学研究科）

地球規模で高齢者人口が増加している。中でも日本は高齢化率21%を超す「超高齢社会」であり、高齢化は特に深刻だ。高齢者向け医療・介護体制や経済支援等の面で多くの課題を抱えるが、その中の一政策として高齢者労働力化が進められている。その動きは社会学や経済学領域から検討されてきたが、主に高齢世代の貧困や彼らの経済的貢献性などについて、俯瞰的視座から論じられている。

本報告では、高齢者労働力化に関する俯瞰的言説を再考するため、青森県大間町にて自営漁に従事する(一般定年65歳以上の)高齢漁師の生活史と語りを取り上げる。漁師町の文脈において、高齢漁師らの出漁が必ずしも経済性や生産性に回収されない実態から、高齢者労働力化の福祉的機能について考える。

芸の発信-京都上七軒北野をどりの創成を中心に-

中原逸郎（京都楓錦会、日本ライフストーリー研究所）

花街は芸舞妓が日本舞踊等の芸を披露し、地元の花街言葉により顧客を応接する都市民の交流の場で、日本固有の遊興地とも言えよう。戦前まで花街は各地方の民俗を取り入れ芸を発信してきたが、第二次世界大戦後は西洋化、民主化等の社会変化の中、芸の発信にも様々な変化が現れた。

本発表では昭和27年(1952)の北野上七軒(京都市上京区、以下上七軒)の花街舞踊(舞台舞踊)である北野をどりの創成に焦点を当て、文献資料研究に上七軒における聞き取りを加え、戦後の花街の芸を取り巻く思想や社会環境の変化にせまる。

海外駐在員女性配偶者の生活の中の両義性—語りからの考察

三浦優子（立教大学平和・コミュニティ研究機構特任研究員）

グローバル化が進み、時間と空間の圧縮が起こり、国境を越えて移動する人々の生活にも変容が起きている。本報告では、そのなかでも海外に仕事目的で移動する駐在員である夫に帯同する配偶者の日常生活実践に焦点を当てる。女性たちは、家族や他の駐在員配偶者たちとどのようにつながり、どのような気持ちを抱きながら暮らしているのだろうか。事例として日本の駐在員家族が多く暮らすドイツ・

デュッセルドルフ日本人社会に注目し、そこに暮らす3人の駐在員配偶者たちの生活に着眼する。3人の女性たちの語りから、駐在生活を肯定的にとらえながらも葛藤や疑問も抱くという両義性が浮き彫りになる。その背景要因、そして今何が問われているのかも考えていく。

語り始めた「ホームレス」の人々——『ビッグイシュー日本版』「今月の人」誌面分析から

八鍬加容子（京都大学文学研究科 博士後期課程）

ホームレス状態の人々が販売者を務めるストリート・マガジン『ビッグイシュー日本版』には、「今月の人」という販売者のライフ・ストーリーのコーナーがある。これまで聞く耳も語る口も持たなかった「ホームレス」の人々の声が、ストリート・マガジンというコミュニティを通して世に出ることの歴史的な文脈と意味・意義はどういうところにあるのであろうか。

本発表では、『ビッグイシュー日本版』創刊号（2003年9月11日発売）から最新号までの「今月の人」を誌面分析し、そこでどのように「ホームレス」が表象されたかを分析する。次に、同時期のメディア報道内の「ホームレス」の表象を比較することで、「ストリート・マガジン」というコミュニティが形成されていく過程で物語がどのような役割を果たしているのかを検討していく。

第3分科会（移民）

司会：佐々木てる、清水美里

在日フィリピン人の第二世代のオーラルヒストリー：アートを通じた表現活動から考察する

仙波梨英子（横浜市立大学大学院都市社会文化研究科博士後期課程）

本研究は、フィリピン系移民のなかでも1980年代以降に日本で生まれ育った「第二世代」に焦点をあて、アートを通じてオーラルヒストリーを共同制作していく試みである。具体的には、在日フィリピン人の第二世代（以下、第二世代）と〈アートのグループ展示を開催する〉という、企画・準備・制作・展示といった、プロジェクト型の発信活動をするなかで、第二世代がどのような世界を描き、他者と関わりあうのかに注目する。また、調査者としての「わたし」が、一作家として参与型観察をおこなうことにより、調査する側・される側という分断された立場を超え、相互作用の中でたち現れていく「わたし」自身の姿をも考察対象とする。本発表では、現時点であきらかになった事象を中心とした分析の経過を報告する。

「留学（さ）せざるを得ない」—当事者のライフストーリーから中国の教育現実を解明する

孫夢（首都大学東京人文科学研究科社会行動学専攻社会人類学教室博士後期課程）

日本が少子高齢化の社会になり、労働力不足の現状を緩和するため、「技能実習生」だけではなく、留学生も沢山呼び寄せた。このうち中国からの留学生は12万人で、全留学生数に対して占める割合は約40%となっている。こうした背景から、留学生、特に、中国人留学生を対象に行われてきた研究は多岐にわたっている。教育学や社会学や心理学などの観点から留学生政策の是非や留学生の適応問題を論じていることが多い。本研究は教育人類学の視点から、母子の二人の主人公のライフストーリーに注目し、中国人留学生の主人公はどのようにして日本留学を選び、その母親はどのように子どもの留学を実現させたのか等、留学に纏わって、中国人留学生が「留学（さ）せざるを得ない」理由を明らかにし、現在中国に

おける教育現実を解明する。

在日コリアンの国境を越えた親族の繋がり—朝鮮半島の南北に離散して暮らす親族との「再会」に着目して—

竹田響（京都大学 人間・環境学研究科）

本発表では、第二次世界大戦終戦以前に朝鮮半島より日本の内地に移ってきた、いわゆるオールドカマーの「在日コリアン」と呼ばれる人びとの親族ネットワークに焦点を当てる。

在日コリアンの9割程度は朝鮮半島南部に自身の出自を持つが、1959年から1984年にかけて実施された日本から朝鮮民主主義人民共和国への「帰国事業」によって、10万人弱の在日コリアンが朝鮮民主主義人民共和国に「帰国」し、朝鮮半島の南北に在日コリアンの親族が離散するという事象が生じた。

今日、在日コリアンが、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国に離散して暮らす親族とどのような国境を越えた親族ネットワークを構築しているのかを、親族との「再会」に着目しながら明らかにする。

「あなたの名」を知らぬ者は生活史をどう語るか—ある中国帰国者3世への聞き取り事例から—

山崎哲（一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程）

本報告の目的は、「あなたの名」を知らなかった者がいかに自己の歴史を語ったのかについて検討することである。具体的には、中国帰国者と総称される人々のうち、ある3世への聞き取り事例を通して行う。

中国帰国者とは、日本へ帰国または移住した中国残留孤児・婦人等とその家族を指す。報告者は中国残留孤児・婦人の孫世代である3世に生活史調査を行なってきた。その中で、報告者による聞き取り調査時にある3世が自らを中国帰国者“である”と初めて知った事例に出会った。本報告では、彼女がなぜ中国帰国者という「あなたの名」を知らなかったのか、また、自身も3世である報告者との相互作用を通じて、彼女自身と家族の歴史がいかに紡がれたかについても考察する。

第4分科会（メディア）

司会：池上賢、倉石一郎

ラジオドラマ史にみる脚本制作の変遷についての1考察

石井育子（株式会社エフエム東京 報道・情報センター）

ラジオドラマは、誕生から90年以上続いている長い歴史がある。テレビ誕生以前から現在のメディア融合時代まで、時代状況、メディア環境、産業構造の移り変わりの中で独自の変化・進化を続けてきたユニークな表現ジャンルともいえる。ネットの普及によりメディア環境が激変している現在、そうした歴史の変遷を踏まえることなく、ラジオドラマの今後の可能性を構想することは困難である。歴史を辿るうえでは、残された音源や記録、資料が限られているため、制作者・脚本家の証言、および彼らが残した数少ない著作が重要な手掛かりとなる。今回は、現在ほぼ唯一の職業的ラジオドラマ専門の脚本家である北阪昌人氏の証言を中心に、ラジオドラマの歴史的展開を跡づけながら、その延長上としての現状及び今後の可能性について分析・考察した結果を報告したい。

ベトナム戦争期のジャーナリスト／諜報員の語りと現在：『ファム・スアン・アン—名前のとおりに生きた男』とその関連書籍をめぐって

澁谷由紀（東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 [U-PARL] 特任研究員）

本報告では、ベトナム戦争期のベトナム共和国（旧南ベトナム）において、国際ニュース通信社ライターやニュース週刊誌『タイム』誌の特派員をつとめた解放勢力側の諜報員ファム・スアン・アンに焦点を当て、彼の語りを持つ今日の意味を考察する。分断国家を経験したベトナムでは、諜報員の存在や二つの体制間の移動は決して特異なことではない。にもかかわらず、2002年にベトナムで出版されたルポタージュ『ファム・スアン・アン—名前のとおりに生きた男』はベトナム国内外で大きな反響を呼んだ。本報告では同書と欧米で出版された関連書籍をとりあげ、アンの語りが政治的にどのように利用されたのか、どのように人々に受け止められたのかについて検討する。

社会派 TV ドキュメンタリーの成立過程の研究、戦争の加害と被害をめぐる『記憶の澱』の研究

西村秀樹（同志社大学嘱託講師）・小黒純（同志社大学社会学部メディア学科）

「社会派 TV ドキュメンタリーの成立過程の研究」の第三弾の発表。本作品（山口放送、2017年放送）は戦争の加害と被害証言を取り扱った TV ドキュメンタリー、第13回日本放送文化大賞テレビグランプリの受賞作品。満州開拓団でおきたソ連兵相手の「性接待」、捕虜の殺害、民間人の殺害など、「先の大戦の記憶を語り、残したいという人びと」の証言をたんねんに取材した制作ディレクターから、制作意図、過程を聴きます。浮かび上がるのは、「心の奥底にまるで澱のようにこびりついた記憶」。

在外ベトナム人コミュニティにおける声の発信：米国のベトナム語メディア関係者の語りから

林貴哉（大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程）

1975年のベトナム戦争終結に伴い国外に亡命したベトナム難民は、世界各地でベトナム人コミュニティを形成している。本発表では、米国のベトナム人コミュニティにおいてベトナム語で放送されているテレビ番組において、どのような背景のもと、いかに情報発信が行われているのかを分析する。番組制作者への聞き取りから、番組において南北ベトナム統一前の伝統的なベトナム語を使用していることがベトナム人コミュニティの声を守り、発展させていくことの土台になっていること、さらに、コミュニティの発展に伴って視聴者やテレビ局の社員の構成にも変化が生じており、ベトナム難民1世の声と若い世代の声の共存が目指されていることが明らかになった。

Ⅱ. 理事会報告

1. 第八期第6回理事会 議事録

日時：2019年6月16日（日）13:00～17:20

場所：上智大学2号館6階603

出席：蘭信三、人見佐知子、上田貴子、大門正克、倉石一郎、田中雅一、橋本みゆき、中村英代、根本雅也、佐々木てる、佐藤量、山田富秋、矢吹康夫、石川良子、滝田祥子（順不同・敬称略）

欠席：北村毅

議事録作成：矢吹康夫

議 題

1. 前回議事録・議事録記載者確認

- ・ 確認した

2. 会長から（蘭）

- ・ 大会を開催し、学会誌を刊行すれば今期理事会はほぼ完了する、最後までよろしく申し上げます

3. 編集委員会報告（佐々木）

JOHA15号編集、J-Stage移行についての進捗状況の報告、ならびに執筆要項改訂の提案があった

○ JOHA15号編集

- ・ 査読は1回目、2回目が完了。理事会終了後、投稿者に再査読結果送付。論文から研究ノートへ変更が1本。二重投稿にあたるかどうかは査読者の判断に委ねる。査読割れについては第三者の判定待ち。聞き書き資料が1本
- ・ 特集記事の原稿は6月末締切。7月頭にすべての原稿が出揃う予定。聞き書き、研究ノートを含めた7本が掲載確定、残り審査中が1本
- ・ 書評・図書紹介は、根本雅也『ヒロシマ・パラドクス』評者：山田富秋。松田ヒロ子 *Liminality of the Japanese empire* は、原則として会員から評者を選定。会員以外の場合は謝礼を支払う（金額は前例を確認）。あらためて編集委員会から打診し、評者が見つからなければ自著紹介として依頼する。自著紹介：栗木千恵子『テロと生きる』
- ・ 広告依頼を例年通り各理事にお願いする
- ・ ワークショップ報告の学会誌掲載について確認

→ 実践報告という形で4000字程度

○ J-Stage以降

- ・ インターブックスの担当者が交代。J-Stageへのアップ料金などについては確認中。最新号以外はア

ップ済み。9月の学会大会直前にインターブックスを訪れ最終的な校正作業を行うので、その際に引き継ぎなどを含めて確認予定

○ 執筆要項改訂

- ・ 投稿時に PDF ファイルに氏名、所属を記載している原稿があった。エントリー用紙に氏名、所属を記載してあるので、原稿には記載しないよう執筆要項に明記する。二重投稿についても明記する。執筆要項の改訂版はメール審議とする

4. 研究活動委員会報告（各委員）

シンポジウム、ワークショップの報告、ならびに大会概要、プログラムについての提案があった

○ シンポジウム報告（根本）

- ・ 20190310 シンポジウム報告「ビジュアルオーラルストーリーの可能性と現在」別紙資料。報告者含め 36 名。次号学会誌で特集とすることが提案された。各報告者の内諾は得られている

○ ワークショップ報告（佐藤）

- ・ 20190525 実践ワークショップ「現地と作品を結ぶ2」別紙資料。20 名参加、うち理事 5 名。学生・院生の参加者が多かった。懇親会も多く参加。その後数名が入会

→ 次年度以降は、新規入会者のリクルートを視野にテーマ、場所を設定してよいのではないか。ワークショップは、JOHA の目玉として次期理事会以降も企画・展開していければよいのではないか

○ 大会プレ企画（滝田）

- ・ プレ企画のディナーは 2000 円程度のコースを予約。個室、15 人程度を予定。バーは 25 人程度まで収容可能。ワンドリンク 1000 円程度。飲食費は参加者が個別に支払う
- ・ ディナーで個室を予約するために 15 人を先に確定する。受付は研究活動委員会・橋本
- ・ 映画上映料 3 万円の代わりに、中村監督への謝金は不要との申し出があった

○ 大会プログラム案（田中・滝田）

- ・ 上映会について

→ 上映会と分科会が同時並行はもったいないので、開始時刻を早め、10:30~13:00 上映、受付は 10:00 からとする

→ 配付する大会プログラムなどで映画のあらすじを紹介する

→ 映画のみを目的とした参加者からも大会参加費を徴収。そのまま大会への参加を促す

- ・ 研究実践交流会について

→ 研究実践交流会は、最初からワークショップ形式に会場設営

→ 研究実践交流会でのトークショーからワークショップへのつながりについて明確にすべき

→ ワークショップ「作品と現地をつなぐ」の紹介は冒頭の主旨説明とする

→ 参加者が作品化の実践について誰でも議論できるような問いを立てる

- ・ シンポジウムについて

→ シンポジウムのみの参加は無料とする

→ 2 日目の受付は 14:00 で締める

→ 理事会中の受付には実行委員教員・坪谷

→ 金菱から、報告は可能だが会誌特集への寄稿は不可能と申し出があった

- すでに発表済みのものをシンポジウムで報告する場合、30%リライトして自己引用は可
- リライトはなしで、根本 or 田中による「はじめに」で長めにレビューする
- コメンテーターのコメントのボリュームに期待。コメンテーターにも事前に依頼しておく
- やり方として、シンポジウム報告、コメント、質疑のやりとりを掲載
- 金菱は日帰りの予定。コメンテーターの村上も日帰りの予定。台風や家族の事情で来られない可能性がある
- ・ 託児サービスについて
- 託児は要望があれば設置。託児については広報する、申込締切を開催校が設定
- ・ その他
- 田中講演は、8日総会后 13:00~14:00 に変更
- 報告者数が増えた場合は、連続の人は落とすことも考えてよいのではないか
- プログラムは受付で配付。作成は研究活動委員会、印刷は開催校。要旨集は HP に掲載

5. 広報委員会報告（矢吹）

ニュースレター発行、ポスター作成について報告があった

- ・ ニュースレター35号（大会報告号）発行
- ・ シンポジウム・ワークショップのポスター作成
- ・ ニュースレター36号（大会プログラム号）発行予定

6. 会計報告（上田）

2018年度決算報告および2019年度予算案の報告、ならびにインターブックス業務内容の確認があった。

- ・ 大会自体の収支は開催校作成、年末の理事会で会計報告。開催校からの補助金も含めたもの
- ・ シンポジウムの配布物は、1週間前までに送付すれば開催校で印刷
- ・ 2019年度予算案
- 事務局補助費は、理事選挙の年度は多め
- J-Stageへのアップ料金の費目→学会誌費+50,000円
- 会計監査：領収書等の現物をレターパックで郵送から、デジタル化して確認する形式に変更
- ・ インターブックス業務依頼内容
- J-Stageアップにかかる業務など

7. 事務局報告（人見）

理事選挙結果、理事選挙規程、会員異動、会員資格について確認、報告、提案があった

- ・ 理事選挙結果について（別紙資料）
- 名簿に退会者を記載したため3票が無効
- 選出理事は9名
- ・ 理事選挙規程のうち重任理事についての確認
- 幹事は重任理事の2期には含まないことを確認

- 開催校理事は重任理事の 2 期には含まないことを確認
- ・ 新入会員、退会者
- 新入会員 18 名、退会者 19 名
- 名誉会員については、原案を現理事会が作成し、次期理事会での検討事項とする。規定が決定するまで退会はペンディングとする
- ・ 大会までのスケジュールについての確認
- 自由報告募集期間 4/1～6/1 締切
- 7 月 HP 公開
- 9 月 大会
- ・ 賛助会員についての内規案（事務局作成）
- ・ 個人名ではなく機関名での投稿は、実践報告はありうる
 - 医学系の学会などの場合、会の活動を支援するが発言はしない
 - 投稿は正会員のみ。賛助会員への原稿依頼は可能
 - 選挙権、議決権、投票権はなし。会誌は発送
 - 各種イベントへの会員価格での参加を認める
 - 入会手続きは柔軟に対応
 - 年会費は 1 口 5,000 円、1 口以上とする
- 継続審議とし次回理事会へ引き継ぐ。他学会の事例もリサーチする
- ・ 立教大学への会誌寄贈について
- 特例として寄贈する

8. その他

- ・ 2020 年度大会開催校：立命館大学
- 大会校企画：対話的構築主義と文学（仮）、大会校理事：佐藤量または西成彦
- ・ 次期大会校の決定までが引き継ぎ前の会長であることを確認

以上

次回設定 2019 年 9 月 7 日 10 時から 横浜市立大学大学院講義室

Ⅲ. お知らせ

1. 会員異動（2018年12月16日～2019年6月16日）

(1)新入会員（入会順）

石井育子	(株)エフエム東京 報道・情報センター
那波泰輔	一橋大学大学院社会学研究科
久島桃代	お茶の水女子大学基幹研究院研究員
佐久川恵美	同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科
安岡健一	大阪大学大学院文学研究科
浦和男	関西大学人間健康学部
八鍬加容子	京都大学文学研究科博士後期課程
仙波梨英子	横浜国立大学都市社会文化研究科博士後期課程
島田有紗	京都大学人文科学研究所（院生）
林貴哉	大阪大学大学院言語文化研究科後期博士課程
吉村竜	首都大学東京大学院人文学研究科博士後期課程
福田真郷	京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程
一藤浩隆	広島大学教育学研究科博士課程後期
孫夢	首都大学東京大学院人文学研究科博士後期課程
四條知恵	日本学術振興会特別研究員（長崎大学）
澁谷由紀 員	東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門[U-PARL]特任研究員
竹田響	京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程
山崎哲	一橋大学大学院社会学研究科後期博士課程

(2)退会

組原慎子、永易三和、前原直子、福良薫、中島美那子、田坂譲、佐藤智美、渡邊健、岸衛、笹山志帆、佐藤和泉、佐野市佳、仙北瑞帆、仲真人、久木山一進、舟田詠子、渡辺徳子

*連絡先（住所・電話番号・E-mail アドレス）を変更された場合は、できるだけ速やかに事務局までご連絡ください。

（事務局長 人見佐知子）

2. 2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）会費納入のお願い

平素は、学会運営へのご協力をありがとうございます。本学会は会員のみなさまの会費で成り立っております。今年度の会費が未納の方におかれましては、ご入金のほどよろしくお願ひいたしま

す。

会費のご納入につきましては8月末日までをお願いしたく存じます。学会誌の一斉発送の時期を過ぎますと、ご納入確認がとれた後に、個別に学会誌発送手続きをとらせていただくことになってしまいます。ご理解のほどよろしく願いいたします。

また、一部ですが2018年度分、2017年度分についても未納の会員さまがいらっしゃいます。こちらも早めのご納入をよろしく願いいたします。

■年会費

一般会員：5000円 学生・その他会員：3000円

*「学生・その他会員」の「その他」には、年収200万円以内の方が該当します。区分を変更される場合は、会費納入時に払込票等にその旨明記してください。

*年会費には学会誌代が含まれています。

■ゆうちょ銀行からの振込先

口座名：日本オーラル・ヒストリー学会

口座番号：00150-6-353335

*払込取扱票（ゆうちょ銀行の青色の振込用紙）の通信欄には住所・氏名を忘れずにご記入ください。

*従来の記号・番号は変わりありません。

■ゆうちょ銀行以外の金融機関から振り込む際の口座情報

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：019

店名（カナ）：〇一九店（ゼロイチキュウ店）

預金種目：当座

口座番号：0353335

カナ氏名：（受取人名）：ニホンオーラルヒストリーガツカイ

郵便払込・口座振込の控えで領収書に代えさせていただきますので、控えは必ず保管してください。必要に応じて、個別に領収書も発行させていただいておりますので、その際にご連絡下さい。その他、学会会計全般についてご質問等ございましたら、会計担当の上田(uedanota(at)kindai.ac.jp)までお問い合わせください。

（会計 上田貴子）

.....

日本オーラル・ヒストリー学会

Japan Oral History Association (JOHA)

JOHAニューズレター第36号

2019年8月7日

編集発行：日本オーラル・ヒストリー学会

JOHA 事務局

〒577-0813 大阪府東大阪市新上小阪228-5

近畿大学Eキャンパス文芸学部 人見佐知子研究室

日本オーラル・ヒストリー学会事務局

E-mail joha.secretariat(at)ml.rikkyo.ac.jp

* 郵送またはメールでのご連絡をお願いいたします。
